

令和2年度

大阪市立中学校教育研究会社会部

研究発表要項

研究主題

「持続可能な社会の形成者として、
社会的な見方・考え方を深める社会科学習」
《学力向上「授業デザインやカリキュラム構築のための研究」》

日時：令和2年10月14日（水）

会場：大阪市立各中学校

社 会 部 研 究 発 表 会 次 第

目 次

1. 授 業 説 明 (授業の見どころ)

・・・・・・・・・・・・・・・・天王寺中 大島 翔太

2. 公 開 授 業 (ビデオ配信)

单元名「聖徳太子の国づくり」(歴史的分野)

・・・・・・・・・・・・・・・・天王寺中 大島 翔太

3. 研 究 協 議 (アンケートによる)

4. 講 演

演題「持続可能な社会の形成者として、

社会的な見方・考え方を深める社会科学習

－「問い」と「資料」で「深い学び」の実現をめざす－

・・・・・・・・龍谷大学法学部 准教授 中本 和彦 様

《 時 程 》

授 業 説 明	1 5 : 0 0 ～ 1 5 : 1 5
公 開 授 業	1 5 : 1 5 ～ 1 5 : 5 5
講 演	1 6 : 0 0 ～ 1 6 : 5 5
諸 連 絡	1 6 : 5 5 ～ 1 7 : 0 0

研究主題 「持続可能な社会の形成者として、社会的な見方・考え方を深める社会科学習」
《学力向上「授業デザインやカリキュラム構築のための研究」》

歴史的分野「なぜ、日本一大きな奈良の大仏をつくることができたのか」

大阪市立緑中学校 土倉ゆかり

1 はじめに

令和2年3月より臨時休業の措置が始まり、本来4月から新学期であるはずが、約2か月にわたり、授業ができない日々の中、私たち大阪市立中学校教育研究会社会部（以下、本市社会部）も、どのように研究を進めるか検討を重ねてきた。新しい生活様式の下、子どもの「学び」を止めないために各家庭でも学習ができるよう、リモートによる授業案の作成も提案されたが、機器の活用方法に重点が置かれてしまうことが懸念された。ICTの活用も今後の課題となってくるが、本年度も本市社会部が進めてきた、生徒の「学び」のための授業づくり、「問い(課題)」と「資料」で「深い学び」を実現するという研究の視点を継続し、研究した授業を録画配信により発表することとした。

2 単元を貫く問いを中心とした授業構想

本市社会部では歴史的分野のみならず、三分野共通して「深い学び」の実現のために、「問い(課題)」と「資料」を中心とした授業の研究を進めてきた。その中で、歴史的分野における「深い学び」へと導く「問い(課題)」とはどのようなものか、その「問い(課題)」の設定を研究の中心に据えた。生徒の興味・関心を刺激し、主体的に取り組もうと思える「問い(課題)」が適切に設定されることにより、生徒が理解を深めること、「深い学び」が実現するのではないだろうか。そのためには、時代を大観する単元ごとの大きな問いである「単元を貫く問い」を設定し、その問いの答えを考えるための手掛かりとしてそれぞれの1時間の授業での問いを積み重ねていく授業構想が重要になってくる。

「単元を貫く問い」の設定には、その単元を通して「生徒に何を学ばせるのか」、「どのような力をつけさせたいか」を明確にする必要がある。何を学ばせたいかが決まって初めて各授業の「問い(課題)」が決まるのである。今回は、「単元を貫く問い」として「なぜ、日本一大きな奈良の大仏をつくることができたのか？」を設定し、仏教の導入から大仏の建立までおよそ150年、その間の日本の政治、国家体制がどのように変革したのかを、「仏教」という文化・技術の側面、「東アジアの情勢」という外交の側面、「中央集権国家体制の確立」という国内政治の側面の3つを軸に、大仏建立という国家事業が行えるようになった過程を考察する授業を考えた。

次に、どのように学ぶか、にとって不可欠な「資料」の精選である。「資料」も、歴史的な見方・考え方はたらかせ、「問い(課題)」の答えにたどり着くためのものや、生徒に仮説を立てさせ、仮説を検証するためのものなどさまざまな「資料」が必要になってくる。しかし、多くの「資料」を提示しても、生徒はそれぞれの「資料」を細部にわたって読み取ろうとしたり、こちらが意図しない部分にこだわったり、そもそも読み取るのに時間がかかることも考えられる。そのため、資料に「見るべきポイント」を書き添えることで、生徒が資料を読み取りやすくなったり、「問い(課題)」の内容からかけ離れたりすることが少なくなるよう、思考を促す工夫を行った。資料の読み取りや考察をする際の留意点として、現代社会から過去の事象を判断するのではなく、過去の人々の感情を理解するために、その時代の文脈や価値観を明らかにしようとする「エンパシー」の視点をを用いることも必要である。

また、「単元を貫く問い」の内容によっては教科書通りの配列では考察の軸がぶれたり、思考の流れがスムーズにいかなくなったりする場面もある。今回の単元は聖徳太子の時代から律令国家体制の象徴である「大仏建立」までの約 150 年間の国家体制の変革を中心とし、班田制の行き詰まりなどの律令制の課題は、こののちの単元で取り組むなど、カリキュラムマネジメントの観点から再構成を行った。

3 まとめ（今後の課題）

今回の発表が事前録画となり、公開授業本来のそれぞれの生徒の活動が見えなかったり、発言が聞こえにくかったりなど、教室全体の様子や、生徒の「学び」の瞬間が見取りにくくなってしまったことは否めない。評価に関しても、授業ごとに「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価は行えているが、「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価していくのが課題である。「主体的に学習に取り組む態度」は毎時間の評価は現実的には困難なことから、方法の一つとして「単元を貫く問い」に向かう姿勢を評価対象としてもよいかもしれない。

また、研究課題である「持続可能な社会の形成者として、社会的な見方・考え方を深める社会科学習」を、歴史的分野としてどのように実現していくのか。現代社会の問題解決に必要な「根拠に基づいて考える力」、「客観的に考える力」、「多面的・多角的に考える力」などを育成し、よりよい未来の実現のために、過去に学ぶことの必要性を感じ取れる授業「今につながる歴史学習」を考えていかなければならない。

歴史的分野 学習指導案

大阪市立天王寺中学校

大島 翔太

単元名

律令国家の形成

内容のまとめり

B (1) 古代までの日本

A (7) 律令国家の形成

1 生徒につけさせたい力

- ・さまざまな資料からものごとを多面的・多角的に捉える視点と歴史上の事象等から、過去と現在の関連性に気づく力を養い、将来を担う持続可能な社会の形成者としての力を身につけさせたい。

2 単元目標

- ・日本の国家体制の基礎が、東アジア情勢の影響を受けつつも大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら整えられたことを、聖徳太子の政治や大化の改新など、律令国家の確立に至るまでの過程を通して理解する。
- ・大陸からもたらされた仏教が我が国の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気づき、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解する。

3 単元構想

- ・聖徳太子が仏教を日本の政治に取り入れておよそ150年後、奈良の都に莫大な資金と莫大な労力を掛けた巨大な大仏が建設された。聖徳太子の政治から、聖武天皇の号令ひとつでこのような一大事業が行えるようになったおよそ150年間に、日本の政治、日本の国家体制はどのように変革したのか。なぜ天皇の号令一つで一大国家事業が行えるようになったのかを解き明かす授業をめざす。

4 単元の指導と評価の計画

＜律令国家の形成＞ （4時間）

- ・第1時 聖徳太子の国づくり （本時）
- ・第2時 大化の改新と東アジアの情勢
- ・第3時 大宝律令の制定
- ・第4時 天平文化

5 単元の評価規準

B (1) 「古代までの日本」 A (7) 「律令国家の形成」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・律令国家の確立に至るまでの過程、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。・仏教の伝来とその影響、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解している。	<ul style="list-style-type: none">・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。

6 「律令国家の形成」の指導計画

学習のねらい		評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
中単元の学習課題　　○なぜ、日本一大きな奈良の大仏をつくることができたのか？					
4 時 間 扱 い	第1時　本時の課題：「なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと考えたのか？」				
	・聖徳太子が政治に仏教を取り入れた理由を東アジア情勢と関連づけて考察する。 ・飛鳥文化の特色を仏教の伝来と関連づけてとらえる。	○			・聖徳太子が行った政策、隋との結びつき、 仏教を取り入れたことの理由や目的を理解している。 ・飛鳥文化の特色を仏教の伝来と関連づけてとらえる。
	第2時　本時の課題：「なぜ、大化の改新が起こったのだろうか？」				
	・大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を理解する。 ・7世紀の東アジアの動きを、国内の情勢と関連づけてとらえる。	○		○	・大化の改新とその後の天智天皇と天武天皇が行った政治の展開について理解している。 ・7世紀の東アジアの動きを、天皇を中心とした国づくりが進められていた国内情勢と関連づけ、多面的・多角的に考察し、表現している。
	第3時　本時の課題：「なぜ、大宝律令は必要とされたのだろうか？」				
	・律令制度の内容を通して、古代国家の仕組みを理解するとともに土地制度・税制度が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを理解する。 ・律令の制定によって誕生した中央政府のしくみや地方への支配の広がりなどを通して、古代国家の特色をとらえる。	○		○	・唐にならった律令制度の内容を通して、古代国家のしくみと税制度・土地制度が人々に与えた影響を理解している。 ・古代日本の律令体制について、天皇・貴族の権力の大きさや唐の影響について考察し、表現している。
	第4時　本時の課題：「天平文化とはどのような文化なのだろうか？」				
	・天平文化の成立を、仏教の広まりや遣唐使がもたらす唐の文化の影響などを通して理解する。 ・聖武天皇が政治に仏教を取り入れた目的を多面的・多角的にとらえる。	○		○　○	・天平文化が、仏教や大陸との交流の影響によって生まれたことを理解している。 ・聖武天皇の政治と仏教との関係を多面的・多角的に考察し表現している。

○なぜ、日本一大きな奈良の大仏をつくることができたのか？

単元名

律令国家の形成

自分の予想

みんなの予想

自分の答え

①なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと考えたのだろうか？

自分の答え

②なぜ、大化の改新が起こったのだろうか？

自分の答え

③なぜ、大宝律令が必要とされたのだろうか？

自分の答え

④天平文化とはどのような文化なのだろうか？

単元の問いに対する自分の答え

1 年 組 番 名前

確認欄

○なぜ、日本一大きな奈良の大仏をつくることができたのか？

自分の予想

みんなの予想

①なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと考えたのだろうか？

自分の答え

- ・ 仏教（外国の文化）を取り入れて、日本が一つになれるようにまとまりのある国したいから。
- ・ 仏教（外国の文化）を取り入れて、中国（外国）にも追いつき負けない国にしたいから。
- ・ 仏教（外国の文化）を取り入れる事で、東アジアの国々に日本の凄さを認めてもらいたいから。
（仏教の導入によって大陸の進んだ技術と政治体制を取り入れようとしたから） 等々

②なぜ、大化の改新が起こったのだろうか？

自分の答え

- ・ 聖徳太子の死後も、東アジアの国々の脅威に備えるにあたり、早急に日本を王族（天皇）中心としたまとまりのある新しい国づくり（中央集権国家）が必要だと考えたから。
（東アジアの脅威の中で天皇中心の体制を整えようとしたから） 等々

③なぜ、大宝律令が必要とされたのだろうか？

自分の答え

- ・ 唐の制度を参考に日本を天皇中心としたまとまりのある国（中央集権国家）としての政治制度を整え、律令国家を完成させるため。
（天皇中心の法治国家を整えようとしたから） 等々

④天平文化とはどのような文化なのだろうか？

自分の答え

- ・ 国家を挙げて唐の文化を輸入し、仏教の力で国を守るために東大寺の大仏や国分寺、国分尼寺を建立するなどの仏教色の強い国際性も豊かな文化。
（大陸の影響色濃い文化、天皇制の正当性を示す文化、庶民の様子を示す文化） 等々

単元の問いに対する自分の答え（生徒から引き出させたい言葉の例）

「仏教の拡大とともに日本の政治体制が整っていったから」

仏教を本格的に日本に取り入れるきっかけをつくったのは聖徳太子の飛鳥時代からである。聖徳太子の政策は外国の文化を積極的に日本に取り入れた。このことは東アジアの国々の脅威から日本を守る必要性があったと予測される。仏教や外国の制度を日本に取り入れることは当時の国家体制をまとめあげ、国の力を上げ、外国からの脅威に備えることに繋がった。また、国のまとまりを強くするために天皇を中心とする制度を整え、国のきまりとしての大宝律令を定めるなど中央集権国家が形成された。これにより財源が確保され、挙国一致として日本一大きな大仏をつくることを可能とした。仏教（外国の文化）と日本の政治体制は密接に結びついていったといえよう。

1 年 組 番 名前

確認欄

律令国家の形成 1. 聖徳太子の国づくり

(1)本時のねらい

- ・ 聖徳太子が政治に仏教を取り入れた理由を東アジア情勢と関連づけて考察する。
- ・ 飛鳥文化の特色を仏教の伝来と関連づけてとらえる。

(2)本時の評価規準

- ①聖徳太子が政治に仏教を取り入れた理由を東アジア情勢と関連づけて考察する。【知識・技能】
- ②飛鳥文化の特色を仏教の伝来と関連づけてとらえる。【思考・判断・表現】

学習活動	学習内容・おもな発問（課題）・生徒の反応等	資料等	評価
○導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中単元の問いと本時の授業である問いを確認し予想する。 ・ 本時の授業である聖徳太子の3つの政策を答える。 ・ 十七条の憲法の内容を調べる。 	学習内容 仏教と東アジア情勢から聖徳太子の政治を考える。 <div>なぜ、日本一大きな大仏をつくることができたのだろうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大仏をつくるための費用や材料を確認した後、単元の問いの答えの予想を考える。 ・ 大仏には仏教が関係していることを確認する。 ・ 国として仏教を取り入れたのは誰か？（聖徳太子） <div>なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと思ったのだろうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業の問いを確認後、答えの予想を考える。 ・ 聖徳太子の政策の1つである十七条の憲法の内容を調べる。 	ワークシート	
○展開1 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当時の国内と外国の状況を資料A～Cから考察する。 	当時の国内と外国の状況を資料A～Cから考察しよう <div> A…豪族のなかでも争いがあり、蘇我氏は強く天皇中心でまとまっていない B…中国は文明が進み、当時の隋も皇帝を中心にまとまり大きな勢力をもつ C…日本への仏教伝来は東アジアの中では遅いが、仏教伝来と同時に建築技術が向上 </div>	・ 資料A①② ・ 資料B①②③ ・ 資料C①②	①
○展開2 <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、聖徳太子が倭国に仏教を取り入れようと思ったのかを班で考察する。 	<div>なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと思ったのだろうか？</div> <div>⇒仏教の導入によって大陸の進んだ技術と政治体制を取り入れようとしたから</div>	・ 資料D	②
○まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、聖徳太子が倭国に仏教を取り入れようと思ったのかを個人でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聖徳太子が倭国に仏教を取り入れた理由を、自分の言葉で表現する。 		

【本時のねらい「聖徳太子が仏教を取り入れた理由を考察し説明できるようになるう」】

MQ. なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと思ったのか？

Q 1. 推古天皇の摂政である聖徳太子が行った代表的な 3 つの政策といえば何？！

A. 冠位十二階・十七条の憲法・遣隋使

【聖徳太子の政策である十七条の憲法を調べよう (資料集 P 23)】

現代語訳 (あらまし)

- 一. 和をたいせつにし、人と「① 争い」をせぬようにせよ
- 二. あつく「② 仏教」を信仰せよ
- 三. 「③ 天皇」の命令を受けたら、必ずつつしんで受けよ

Q 2. 十七条の憲法は
誰に対しての心構えか？！

A. 役人

(課題 1) 当時の国内と外国の状況を資料 A～C から考察しよう！

資料 A からわかる国内の状況	資料 B からわかる外国の状況	資料 C からわかる国内外の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 豪族の数は多い ・ 豪族のなかで争いがある ・ 蘇我氏は天皇を暗殺 ・ 豪族も滅ぼしている ・ 天皇の力は強いとはいえない <p style="text-align: right;">等々</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国は世界の中心 ・ 中国は文明が進んでいる ・ 隋は大きな力をもつ ・ 隋では皇帝が国を治めている ・ 中国と朝鮮は争っている <p style="text-align: right;">等々</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の仏教伝来は遅い ・ 中国の仏教伝来は日本よりも早い ・ 建物が立派になった ・ 建築技術が高くなった <p style="text-align: right;">等々</p>



(課題 2) 聖徳太子は十七条の憲法に「あつく仏教を信仰せよ」と記しました。

ではなぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと思ったのか？！

A～D の状況をふまえて聖徳太子が考えていたことを考察してみよう！

班の MQ の答え

- ・ 仏教 (外国の文化) を取り入れて、日本も天皇中心でまとまりのある国したいと思ったから。
- ・ 仏教 (外国の文化) を取り入れて、中国 (外国) に追いつき負けない国にしたいと思ったから。
- ・ 仏教 (外国の文化) を取り入れる事で、東アジアの国々に日本の凄さを認めてもらいたかったから。 等々

(まとめ) なぜ、聖徳太子は倭国に「仏教」を取り入れようと思ったのか？

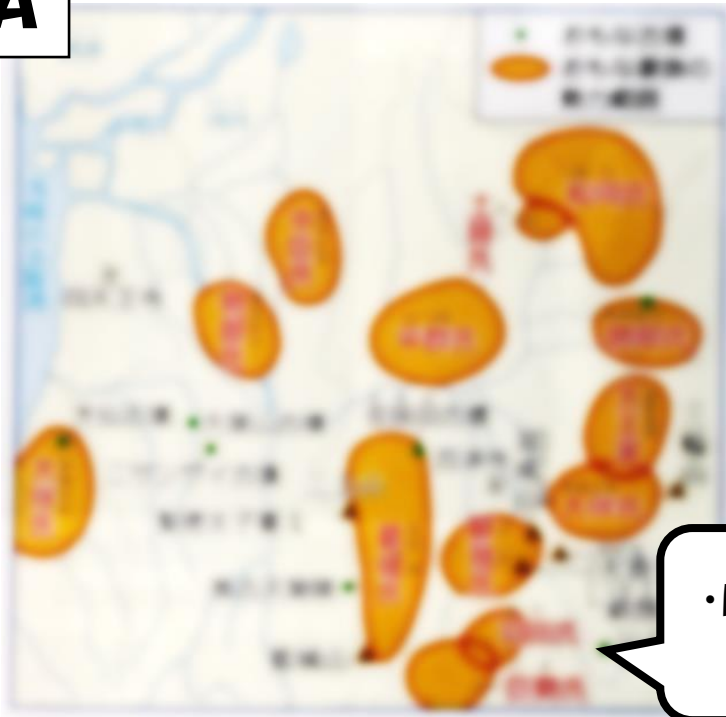
本時で学んだ語句を使い自分で説明してみよう！【思考・判断・表現】(A ・ B ・ C)

説明

確認欄

A

【①豪族の分布図】



【②蘇我氏の動き】

587年

豪族である蘇我馬子が物部氏を滅ぼす。

592年

蘇我馬子が崇峻天皇を暗殺し推古天皇（馬子のめい）を即位させる。

・当時の蘇我氏の力はどうだろう？

・国内の豪族たちはどのような状態？
豪族の数はどうだろう？

B

【①中国の地位】



【②当時の中国（隋）の領土】



煬帝の父は300年近くに及んだ中国の分裂に終止符を打ち、統一へと導いた。煬帝はその父を殺して皇帝に即位した人物。煬帝の「煬」は悪逆な皇帝を示す。



- ・中国は昔からどのような国なのか？！
- ・当時の中国（隋）は、東アジアのなかで国の強さや大きさはどうだろうか？隋では誰が国をまとめているのだろうか？

【③東アジアの動き】

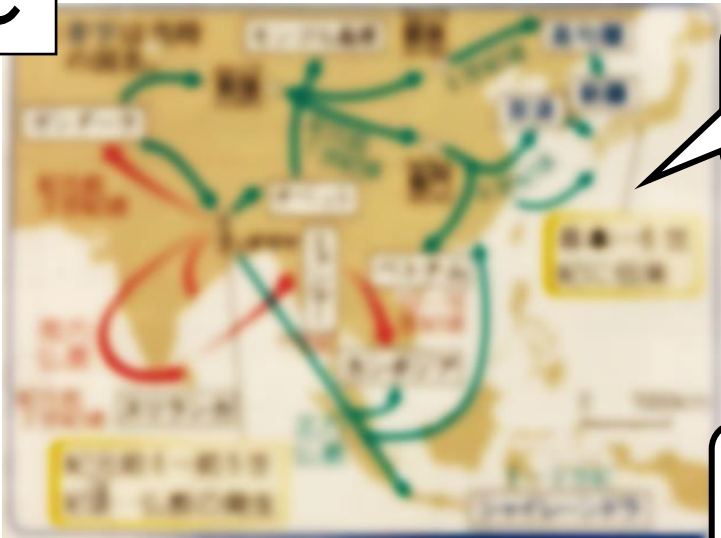
年表	東アジアの動き
439年	北魏が中国北部を統一し南北朝時代に入る（中国）
562年	新羅が伽耶地域を滅ぼす（朝鮮半島）
589年	隋の煬帝が中国を統一する（中国）
612年	隋は高句麗を攻めるが失敗（中国・朝鮮半島）

・当時、東アジアの中国と朝鮮半島ではどのような状況が起こっていたのか？

倭国にいる聖徳太子はこの状況から何を考えていたのだろうか？

C

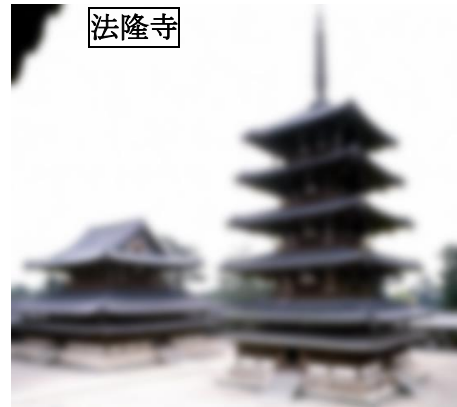
【①仏教の発生と伝来】



・日本への仏教伝来は東アジアの国々と比べてどうだろう？

・法隆寺は世界最古の木造建築であり、1300年以上も現存し続けている。

【②飛鳥時代からの建造物の変化】



法隆寺

・飛鳥時代には仏教伝来と同時に寺院（法隆寺・四天王寺等）が建てられた。
これを初めて見た当時の人々はどのように感じたのだろうか？ 建築技術はどうだろう？

D

【四天王寺と当時の建立時の位置】



・聖徳太子は当時、四天王寺をどの辺りに建立したのだろうか？

聖徳太子は海沿いに建立した
四天王寺から誰に何を伝えたかった
のだろうか？



律令国家の形成 2. 大化の改新と激動の東アジア

(1) 本時の目標

- ・大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を理解する。
- ・7世紀の東アジアの動きを、国内の情勢と関連づけてとらえる。

(2) 本時の評価規準

①大化の改新とその後の天智天皇と天武天皇が行った政治の展開について理解している。【知識・技能】

②7世紀の東アジアの動きを、天皇を中心とした国づくりが進められていた国内情勢と関連づけ、多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】

学習活動	学習内容・おもな発問（課題）・生徒の反応等	資料等	評価
<p>○導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の流れを踏まえて、本時の内容について学ばせる。 <p>○展開1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乙巳の変でなぜ蘇我氏を滅ぼしたのかを考察させる。 ・改新の詔を読み、中大兄皇子が目指した政治を考察させる。 <p>○展開2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘇我氏を倒した後、中大兄皇子はどのような政治を行なったのかを、外交面と内政面から考える。 <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新がどのような改革だったのかを個人でまとめる。 	<p>学習内容 中大兄皇子(天智天皇)の政治を東アジア情勢と中央集権国家体制の確立という面から考える。</p> <p>なぜ、大化の改新が起こったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の問いを確認後、答えの予想を考える。 <p>中大兄皇子はなぜ、蘇我氏を倒さなければいけなかったのか。</p> <p>⇒蘇我氏を倒し、聖徳太子が目指した天皇中心の政治を行うため</p> <p>中大兄皇子は蘇我氏を倒した後、どのような改革を行っていったのか。国内と外国の動きの資料から考察しよう。</p> <p>⇒白村江の戦いで敗北したのち、守りを固め、国内の政治に尽力した。戸籍・律令の制定、大津京（現在の滋賀県）への遷都などが挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新がどのような改革だったのかを、自分の言葉で表現する。 	<p>ワークシート</p> <p>資料</p>	<p>①</p> <p>②</p>

【本時のねらい「大化の改新の意味を理解し、大化の改新が起こった理由を説明できるようになる」】

MQ. なぜ、「大化の改新」は起こったのだろうか？！

Q1. この絵が示すものは一体何だろうか？！

あなた（みんな）



大化の改新の始まり（645年）

（考察）なぜ、蘇我氏を倒さなければいけなかったのか？！中大兄皇子の気持ちを資料Aから考えてみよう！

中大兄皇子の気持ち（あなたとみんな）

- ・蘇我氏は許せない
- ・蘇我氏をこのままにしておいてはいけない
- ・聖徳太子の意思を受け継ぐぞ

等々

（考察2）中大兄皇子（天智天皇）は蘇我氏を倒した後、どのような改革を行っていったのか？

国内と外国の動きの資料から考察しよう！

国内政策

改新の詔（646年）「新政権の政治方針」

- 1 すべての土地と人々を国家の直接支配のもとに置き、私有を認めない。（公地公民）
- 2 都を定め、畿内・国・郡などの行政組織を整備し、中央と地方を結ぶ交通制度を作る。
- 3 戸籍をつくり国民や土地を把握。
- 4 昔からある税の制度を廃止して、新たな租税制度（米の税）を定める。

中大兄皇子が行った国内政策はどのような政策？簡単にまとめよう！（班の考え）

天皇を中心とした中央集権体制づくり（大化の改新）

対外政策

Q 2. 朝鮮半島では、隋にかわり唐が建国し、唐と手を組んだ新羅は高句麗と百済の軍を破りました。

この際、日本は百済を救済するために朝鮮半島に大軍を送りました。

では、この戦いを何と言いますか？！（教P 43）

A. 白村江の戦い

結果…（ 勝 or 負 ）

白村江の戦いで百済救済に失敗した中大兄皇子はどのような対外政策を行ったのか？

資料からわかることを調べよう！

中大兄皇子が行った対外政策はどのような政策？具体的にまとめよう！（班の考え）

- ・都を大津宮に移動させる
- ・山城や水城を築く
- ・大宰府を防衛するために防人を配置する

等々



東アジア諸国（中国や朝鮮半島諸国）に負けない為の国内強化

※天智天皇の死後、

天智天皇の子「① 大友皇子 」と 天智天皇の弟「② 大海人皇子 」が跡継ぎを争う



V S



WIN 「 大海人皇子（天武天皇） 」



壬申の乱（672年）

※天智天皇の意思を受け継ぎ天武天皇とその皇后「持統天皇」が政治の基礎を築く。

あなたのMQの答え

（まとめ）大化の改新とは一体どのような改革なのだろうか？

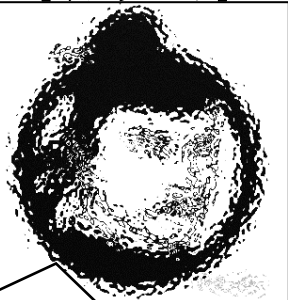
本時で学んだ語句を使い自分で説明してみよう！【思考・判断・表現】（ A ・ B ・ C ）

説明

確認欄

A

【中大兄皇子】



聖徳太子の意思を受けつくぞ！！
蘇我氏の動きから何を考えていたのか？

6 2 2	聖徳太子 死去
6 2 8	推古天皇 死去
	蘇我蝦夷（入鹿の父）が次の天皇を指名
6 4 2	蘇我入鹿が国の政治を握る
6 4 3	入鹿が聖徳太子の子の山背大兄王を自殺に追い込む
6 4 4	入鹿は自分が建てた家を「宮門（天皇の家）」と呼ぶ。

私が目指した国づくりはどのような国？
なぜ、仏教を取り入れたのかな？



対外政策①・②

①【古代宮都の変遷】



中大兄皇子（天智天皇）は
白村江の戦い（6 6 3 年）の後、都は
どこに移したのか？

なぜ、都をその場所へと移動させたの
だろう？一体何のため？

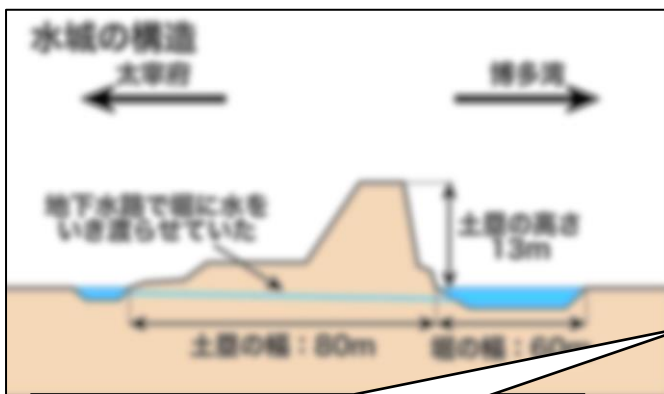
②【大宰府周辺の様子】



※大宰府…九州北部におかれた役所。九州の行政や外交、軍事を担当し

「遠^との朝廷」とも呼ばれた。

また「防人^{さきもり}」と呼ばれる九州北部を守るために兵士を21歳以上の男子に3年交代で義務づけた。



中大兄皇子はなんの為に

「水城」や「山城」をつくったのか？



山城^{やまじろ}…自然の地形を利用して、山頂や山の中腹に築いた城。九州北部から瀬戸内地方にかけてつくられた。大野城もこれにあたる。

律令国家の形成 3. 大宝律令の制定

(1) 本時の目標

- ・ 律令制度の内容を通して、古代国家の仕組みを理解するとともに土地制度・税制度が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを理解する。
- ・ 律令の制定によって誕生した中央政府のしくみや地方への支配の広がりなどを通して、古代国家の特色をとらえる。

(2) 本時の評価規準

- ① 唐にならった律令制度の内容を通して、古代国家のしくみと税制度・土地制度が人々に与えた影響を理解している。【知識・技能】
- ② 古代日本の律令体制について、天皇・貴族の権力の大きさや唐の影響について考察し、表現している。【思考・判断・表現】

学習活動	学習内容・おもな発問（課題）・生徒の反応等	資料等	評価
<p>○導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イラスト例から、刑罰が制定されたことを確認する。 <p>○展開 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料から律令によって定められた官制の仕組みについて考察する <p>○展開 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令とともに制定された制度が、天皇を中心とした中央集権国家にとって必要だったことを、資料から考察する。 <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、「大宝律令」は必要とされたのかを個人でまとめる。 	<p>学習内容 東アジア情勢の影響を受け、中央集権国家体制の確立を目指して</p> <p>大宝律令が整備された経緯を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イラストの例から、刑罰の基準が定められたことを知る。 <p>役所はどのような仕組みになっているのだろうか</p> <p>⇒中央と地方に役所を分けて、天皇に権力を集中させる仕組みになっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令によって定められた官制から気づいたことを挙げる。 <p>天皇に権力を集中させるために必要なものを資料B、Cから考察しよう</p> <p>B・・・班田収授法、税制度(租庸調、労役)、兵役</p> <p>C・・・道路と駅制の完成(中央と地方のつながり)</p> <p>⇒税制度を確立することで財政を整え、道路と駅の完成により中央と地方がつながり、天皇の命令が全国各地に行き渡り、各地から物資が都に集められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料B、Cから読み取れることがらを挙げる。 <p>なぜ、「大宝律令」は必要とされたのだろうか</p> <p>⇒唐の制度を参考に、天皇を中心とした全国を支配する仕組みを整えるため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大宝律令」が必要とされた理由を、自分の言葉で表現する。 	<p>ワークシート</p> <p>資料A</p> <p>資料B 資料C</p>	<p>①</p> <p>②</p>

【本時のねらい「日本に律令が必要とされた理由を説明できるようになろう」】

MQ. なぜ、「大宝律令」は必要とされたのだろうか？！

Q 1. 飛鳥時代、次の行為を行った場合どのような罰が与えられたのだろうか？

「天皇に悪口を言った場合」



予想)

A. 首斬り



律

(刑罰のきまり)

Q 2. ① 役人たちの成績はどのように決定していたのか？

予想) A. 出勤日数

② 次のA～Cの仕事はどの役所の省にあたるのかをア～ウから予想しよう！



令

(政治や役所のしくみ)

A 戸籍の管理、税のとりたて 予想 A. ア

B 武人の人事、軍事、警備 予想 A. イ

C 九州諸国の統制、外交・国防 予想 A. ウ

(ア) 民部省 (イ) 兵部省 (ウ) 大宰府

(考察) 役所の仕組みはどのような仕組みになっているのか？！Aの資料から考察しよう！

律令によって定められた官制から気づくこと (あなたとみんな)

中央と地方に役所を分けて、天皇に権力を集中させる仕組み

(考察2) 天皇に権力を集中させるために必要なものといえば一体何だろう？！

BとCのそれぞれの資料から権力を集中させるためにつくった要素をそれぞれ探そう！

Bの資料からわかる要素（具体的に）	Cの資料からわかる要素（具体的に）
班田収授法 税を集め、労働をさせる（租庸調・労役・兵役）	道路と駅の完成によって中央と地方が繋がり 特産物や情報が運ばれてくる



中央集権の為に税制度（租庸調）や交通制度（道や駅の整備）を整えること

※税は唐にならいお金にも変更「① 富本銭 」・「② 和同開珎 」

天智天皇の時代から続けられてきた
きまりや制度である



大宝律令の完成（701年）



710年に元明天皇は都を奈良の「③ 平城京 」に移す⇒「④ 奈良時代 」へ

班のMQの答え

・(唐の制度を参考に) 天皇中心とした全国を支配するしくみを整える為。

(まとめ) なぜ、大宝律令は必要とされたのだろうか？

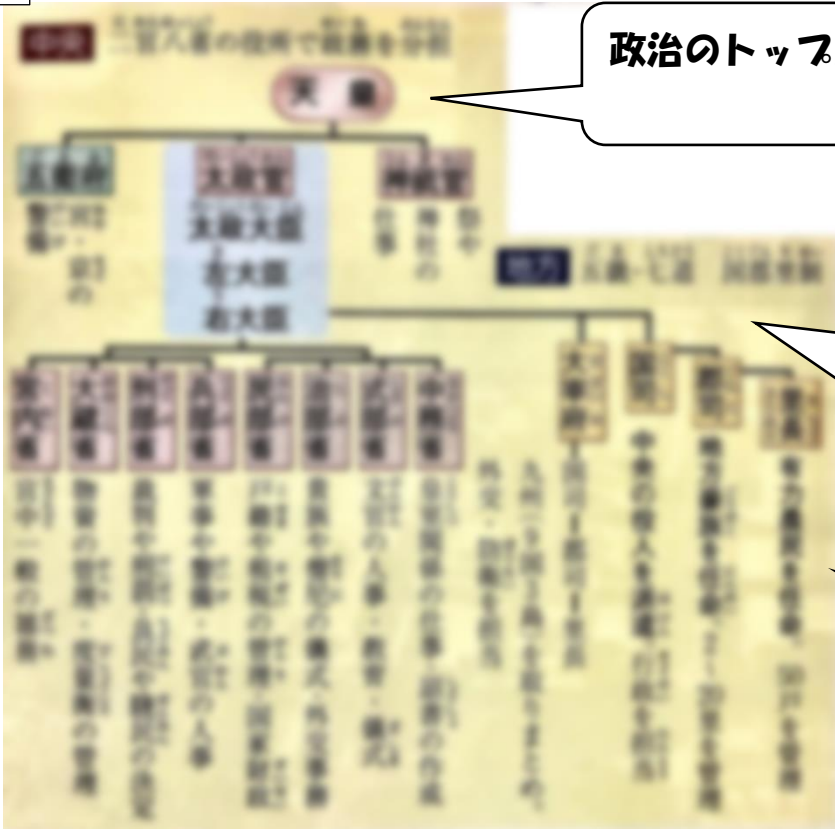
本時で学んだ語句を使い自分で説明してみよう！【思考・判断・表現】（ A ・ B ・ C ）

説明

確認欄

A

律令によって定められた官制



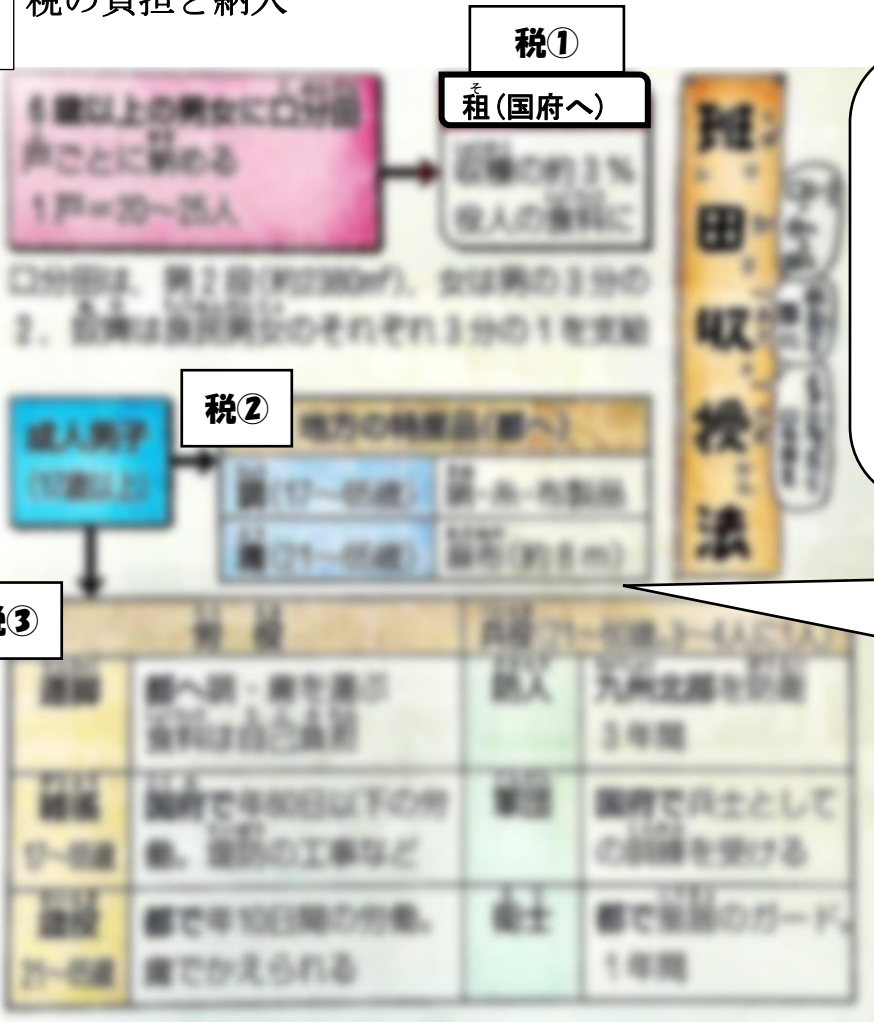
政治のトップは誰だろう？

- ・どのような役所がある？
- ・役所の仕事はどのような仕事があるかな？

天皇の命令はどこまで伝わるのだろうか？

B

税の負担と納入



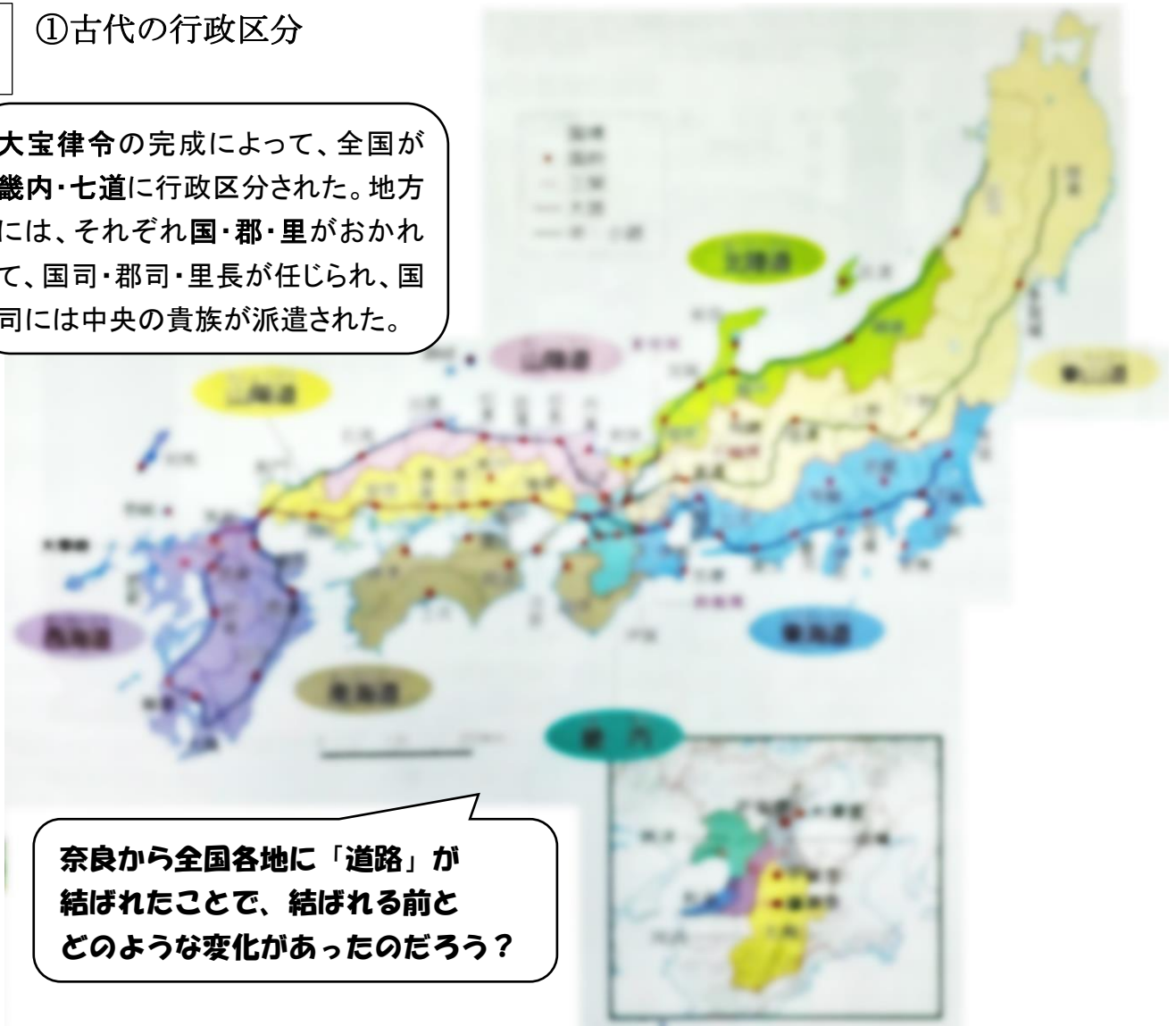
「班田収授法」

戸籍に登録された6歳以上のすべての男女に口分田を与える。その代わりに面積に応じて税(租)を負担しなければならない。

当時はどのような税があったのだろうか？
税①～③に着目しよう！

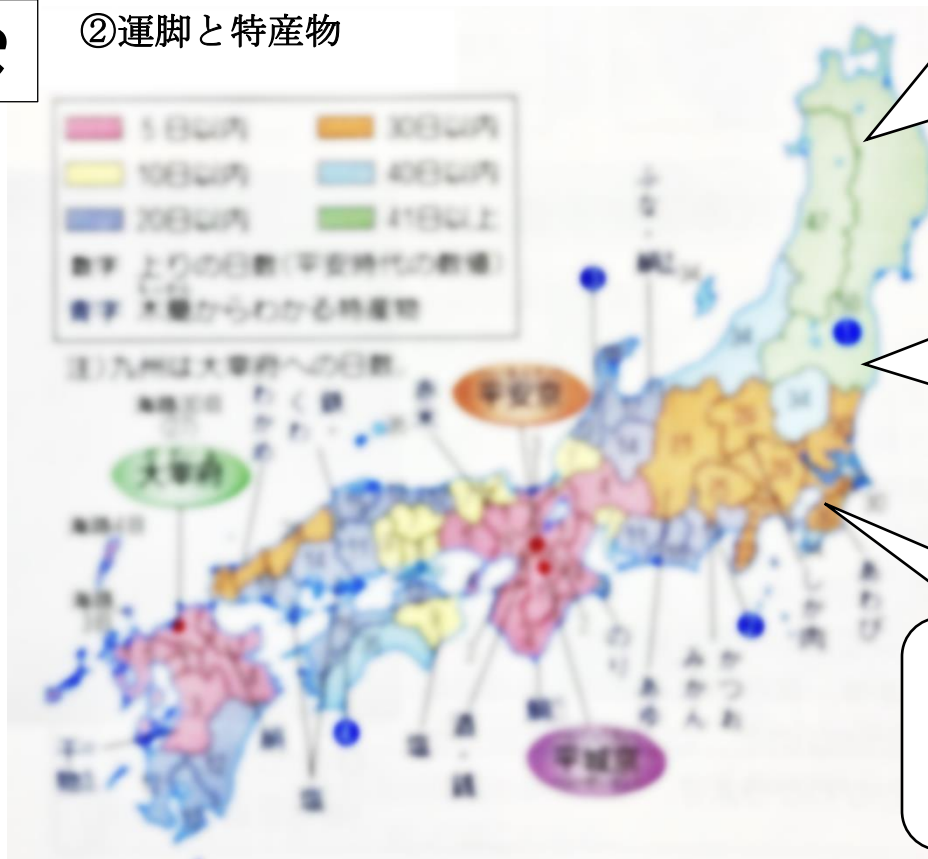
①古代の行政区分

大宝律令の完成によって、全国が畿内・七道に行政区分された。地方には、それぞれ国・郡・里がおかれて、国司・郡司・里長が任じられ、国司には中央の貴族が派遣された。



奈良から全国各地に「道路」が結ばれたことで、結ばれる前とどのような変化があったのだろうか？

②運脚と特産物



地方の特産物に は何かあるのかな？

各地方から都まで
何日かかるのかな？

税は「誰のもと」に 集められたのだろうか？

律令国家の形成 4. 天平文化

(1) 本時の目標

- ・天平文化の成立を、仏教の広まりや遣唐使がもたらす唐の文化の影響などを通して理解する。
- ・聖武天皇が政治に仏教を取り入れた目的を多面的・多角的にとらえる。

(2) 本時の評価規準

- ①天平文化が、仏教や大陸との交流の影響によって生まれたことを理解している。【知識・技能】
- ②聖武天皇の政治と仏教との関係を多面的・多角的に考察し表現している。【思考・判断・表現】
- ③古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

学習活動	学習内容・おもな発問（課題）・生徒の反応等	資料等	評価
○導入 <ul style="list-style-type: none"> ・正倉院クイズ ・ニュース映像を見て、「正倉院クイズ」に答える。 	学習内容 天平文化が仏教や東アジア情勢の影響を受け、中央集権国家体制が確立した上に成り立った文化であることを学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1200年以上昔の宝物が色あせることなく現存すること、非常に多くの宝物が保管されていることをおさえる。 	ニュース映像	①
○展開1 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに分けられた資料から、天平文化の特徴をとらえ、天平文化がどのような文化なのか考える。 	天平文化とはどのような文化なのだろう。 ⇒仏教の影響を受けた文化・大陸の影響が色濃い文化など <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となった資料を明示する。 	資料A～D	②
○展開2 <ul style="list-style-type: none"> ・この単元を通して、仏教がどのように変化したのかを考えさせる。 	聖徳太子が取り入れた「仏教」は、聖武天皇のころにはどのような「仏教」に変化しただろう。 ⇒「外国の文化」としての仏教から、「政治の道具」としての仏教へと変化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・この単元を通して、「仏教」がどのように変化したかを考える。 		
○まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・「単元を貫く問い」を考察する。個人でまとめる。 	なぜ日本一大きな奈良の大仏をつくることができたのか。 ⇒これまでの単元の学習を通して学んできたことから、自分の言葉で表現する。		③

【本時のねらい「天平文化の特徴を理解し、仏教に対する考え方がどのように変化したかを説明しよう」】

MQ. 天平文化とはどのような文化なのだろうか？！

Q. 正倉院クイズ

- ①人々が見ていた「宝物」は誰のもの？ ②正倉院の「宝物」、次に展示されるのは何年後？
- A. 聖武天皇 A. 1年後
- ③人々が見ていた「宝物」は何年前のもの？ ④そんなに昔のものが完全な形で残っている理由は？
- A. 約1300年前 A. 高床式と校倉造

(考察) 天平文化とはどのような文化なのだろうか？！ A～Dの資料から天平文化を説明してみよう！

天平文化とは…

- [A]から、 仏教の影響を受けた 文化である
- [B]から、 大陸の影響が色濃い 文化である
- [C]から、 天皇制の正当性を示す 文化である
- [D]から、 庶民の厳しい生活が描かれた 文化である

(考察2) 聖徳太子が取り入れた仏教は、聖武天皇のころにはどのような仏教に変化したのかを考察しよう。

聖徳太子のころの仏教 (1回目の授業をふりかえろう！)

仏教を取り入れることで、東アジアの国々に日本のすごさを認めてもらう

仏教を取り入れることで、中国にも負けない国にしたい

⇒「外国の文化」「正装」としての仏教



聖武天皇のころの仏教

東大寺・国分寺・国分尼寺を建立することで、仏教の力で不安定な情勢から抜け出そうとする

寺院・大仏の建立を「詔」として人々に命令する

⇒「宗教」「政治の道具」としての仏教

(まとめ) 天平文化とはどのような文化なのだろうか？

本時で学んだ語句を使い自分で説明してみよう！【思考・判断・表現】(A ・ B ・ C)

説明

確認欄

☐

天平文化とはどのような文化？ Aの資料からわかることは？

東大寺大仏



月光菩薩像



武蔵国分寺イメージ図



国分寺建立の詔（聖武天皇）

私は徳の薄い身なのに、天皇という思い任を負っている。しかし、民を導く良い政治ができず、とても恥ずかしい。この数年は凶作がつづき、伝染病も流行している。金光明最勝王経には、「もしこの経を広めれば、われら四天王は常にその国を守り、災いや悲しみや疫病を消しさる」とある。そこで諸国は七重塔をつくり、金光明最勝王経と法華経十部を写経させることとする。七重塔をもつ寺は国の華だから必ず良い場所を選んで久しく長く保つようにしなければならない。

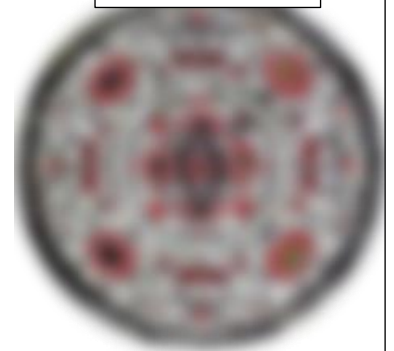
天平文化とはどのような文化？ Bの資料からわかることは？

正倉院はシルクロードの「終着駅」
とも言われている。



正倉院

平螺鈿背円鏡



鳥毛立女屏風



五絃の琵琶



紺瑠璃杯



描かれているのは、
唐の女性だと言われている

ペルシャ人(イラン)とラクダ
が描かれている

天平文化とはどのような文化？ Cの資料からわかることは？

書物名	内容
古事記	神代から推古天皇までの天皇の系譜などの記録で、 712年 に完成。
日本書紀	神代から持統天皇までの国の歴史で、 720年 に完成。
風土記	713年 に命を發した、諸国の産物や伝承の本。現存するのは 5つ のみ。
万葉集	770年 ごろに成立した、 20巻 にわたる和歌集。大伴家持が編者。

『古事記』や『日本書紀』は、天皇の日本国支配の正統性を示している。

天平文化とはどのような文化？ Dの資料からわかることは？

貧窮問答歌（山上憶良）

風にまじって雨の降る夜、その雨にちらちらと雪さえ混じって降るさびしい夜はとても寒いので、塩をなめながら、酒のかすを水にといてわかしもの飲み、寒さのためにせきをしたり、くしゃみをしたり、ろくにありもしないひげをなでて自分のほかにはえらい人はあるまいと自慢してみるものの、寒くてたまらないので麻の夜具をひっかぶり、肩をおおうばかりに着重ねても寒くてたまらない。……税を取り立てる役人の声が外から聞こえてくる



誰の、どのような暮らしが想像できるだろう？